

利回りはおのおの約1%方上昇することとなった。

また、4月の起債見込み額(純増ベース、国債、金融債を除く)は、292億円と償還額の大きかった前月(26億円)に比較すれば大幅な増加となるが、水準としては依然かなり低めである。内訳では、前月までに公社債投信発足時の多量起債の満期到来が一巡し、償還額が著しく減少する一般事業債(116億円、前月127億円純減)、電力債(50億円、同75億円純減)が純増に転ずる点が目だが、自主的起債調整が続けられていることもあって純増額としては低水準の予定である。さらに政保債(91億円、前月184億円)、地方債(35億円、同45億円)なども大幅に減少する見込みである。国債の市中引受け額は、42年度分300億円、43年度分1,100億円、合計1,400億円と前年同月並みとなったが、このうち証券会社の扱い分は43年度分のうち42億円と決定された。

実体経済の動向

◇製品在庫の増勢続く

生産は、1月前月比-0.3%、2月同+0.7%のあと3月も速報ベースで前月比+1.0%と、ひところにくらべ増勢が鈍化してきている。ただ、一時的とみられる耐久消費財の落込みや一般資本財、建設資材の堅調などを考えると、景気調整策の効果が生産面に大きく現われてきたとはいまだ即断できない。一方出荷は、かなりのフレがあるものの、このところ生産財および資本財(主として見込み生産分)を中心に鈍化傾向を徐々に明らかにしてきたようである。

このような出荷動向を反映して生産者製品在庫は増勢を続けており、在庫率も相当急速に上昇している。とくに3月の速報計数を含めて判断すると、銅・アルミ地金、銅製品、化学繊維原料、合繊長繊維、製紙パルプ等の生産財、トラック、一般資本財中量産品目の一部等について出荷の鈍化による在庫増勢が認められる。こうした在庫増加はいまだ生産活動全般に対する大きな圧力とはなっていないが、今後漸次この面に影響を及ぼしてくることが考えられよう。他方、流通在庫は、販売業者在庫指数によってみても引き続き調整の動きを進めつつあるものと判断され、上記出荷の落着きも、これに影響された面が強いと思われる。

一方、設備投資についてみると、このところ小型トラック、標準電動機、機械プレス等一部設備投資関連財の出荷にやや伸び悩み傾向がみられるのは、流通段階における買控えのほか、中小企業の設備購入態度の変化も影響しているのではないかと考えられる。最近行なわれた各種アンケート調査をみても、中小企業の設備投資意欲は落着きみになってきている。しかし、大企業の設備投資意欲は依然根強く、全体としての設備投資は当面なおかなりの増勢を続けるものと思われる。

個人消費は百貨店売上げの動向などからみて依

然高水準の伸びを示している。春闘の妥結状況いかんなどにもよるが、今後の個人所得の伸びは引き続きかなり高いものと予想され、当面消費の動向に大きな変化が生ずるとは思われない。

(生産——引き続き増勢落着き傾向)

2月の鉱工業生産(季節調整済み)は、1月減少(-0.3%)のあと+0.7%と比較的低い伸びにとどまった。このような年初来の伸び悩みには食料品(1月)や船舶(2月)等、一時的要因によるものも少なくないが、全体として伸び率が若干鈍化してきたことは否定できない。ちなみに不規則変動の多い船舶、鉄道車両および食料品を除いた生産の対前月比伸び率は12月+1.7%、1月+0.7%、2月+1.1%となる。

特殊分類別にみると、一般資本財は標準電動機、変圧機、鉄鋼用ロール等一部量産機種に減少を示すものがあつたものの、化学機械、圧延機械、電子応用装置等の増産を中心に+1.0%の増加となった。このため、資本財輸送機械が船舶の落込みから-1.6%と減少を示したにもかかわらず、資本財全体では前月比横ばいを示した。一方建設資材は、更年後の出荷増を反映して鉄骨、セメントを中心に+1.7%増加した。また、非耐久

消費財は先行き懸念から夏物の生産着手が遅れた繊維製品の減少を中心に-0.1%となったものの、耐久消費財が乗用車の増産や冷房機器の備蓄生産等を中心に+3.8%と著増したため、消費財全体では+1.8%の増加となった。この間生産財も、鉄鋼、繊維が減少したものの非鉄地金、石油製品等の増加から+0.5%の微増を示した。

なお3月の鉱工業生産(季節調整済み)は、速報によると+1.0%と前月(+0.7%)同様比較的落ち着いた伸びを続けている。ただ内容的にみると、耐久消費財がやや一時的とみられる落込みを示した反面、一般資本財、建設資材は大幅な増加を示した。

(出荷——伸び悩み傾向)

2月の鉱工業出荷(季節調整済み)は、1月著増(+3.5%)のあと2月には-0.6%と減少を示した。ただこれには前月大幅増加をみた船舶が反動減(-36.5%)を示したことが影響している。

特殊分類別にみると、一般資本財がボイラー原動機、化学機械の大幅な反動増もあって+2.6%の増加を示した反面、資本財輸送機械が船舶の反動減から大幅減少(-15.9%)となったため、資本財全体では-5.2%の減少となった。さらに建設資材も製材の出荷増にもかかわらず亜鉛鉄板等の減少から-0.3%と減少を示したほか、生産財も繊維、化学製品を中心に-0.4%と1年ぶりに減少を示した。一方消費財では耐久消費財が乗用車の出荷好調にもかかわらず夏物家電製品の一時の出荷減、テレビ、電気掃除機の伸び悩みなどを主因に、-1.4%と減少を示したものの、非耐久消費財が食料品の反動増を中心に+3.9%の著増を示したため、消費財全体では+2.1%の増加となった。

なお、3月の鉱工業出荷(季節調整済み)は、速報によると+0.6%と比較的低い伸びにとどまった。しかも当月は船舶の出荷増が大きく、例月出荷のフレが大きい船舶、鉄道車両、食料品を除いてみると引き続き微減になったものとみられ、このところ全体として出荷は鈍化傾向にあるものと

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年				43年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1月	2月	3月
鉱工業	125.9	131.4	138.2	145.4	147.0	148.1	—
前期(月)比	3.1	4.3	5.2	5.2	-0.3	0.7	1.0
前年同期(月)比	20.2	19.0	19.5	19.1	17.0	19.1	17.9
投資財	4.8	6.3	6.1	6.9	-1.1	0.4	3.5
資本財	5.0	6.8	8.0	9.1	-3.7	0	2.0
同(輸送機械を除く)	2.6	9.0	7.8	8.3	-3.2	1.0	5.2
輸送機械	11.1	2.3	8.6	8.9	-2.6	-1.6	—
建設資材	4.5	5.0	2.1	2.0	4.8	1.7	7.0
消費財	0.1	3.6	5.3	6.1	-2.4	1.8	-2.8
耐久消費財	7.5	1.7	8.2	8.9	1.7	3.8	-4.0
非耐久消費財	-2.5	3.2	3.8	4.5	-3.3	-0.1	-0.9
生産財	4.8	3.3	4.1	3.3	2.3	0.5	0.6

(注) 通産省調べ、43年3月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年				43年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1月	2月	3月
鉱工業指数	125.5	130.2	137.3	140.8	146.8	145.9	—
前期(月)比	2.8	3.7	5.5	2.5	3.5	-0.6	0.6
前年同期(月)比	19.1	17.4	18.6	15.4	16.8	17.4	18.4
投資財	2.3	7.8	8.2	0.4	9.4	-3.7	6.3
資本財	1.6	9.6	10.7	-0.2	9.9	-5.2	5.7
同(輸送機械を除く)	3.2	7.6	7.6	8.0	-2.6	2.6	1.6
輸送機械	0.6	12.7	16.0	-13.1	35.0	-15.9	—
建設資材	3.1	6.5	0.4	2.4	7.1	-0.3	5.8
消費財	1.5	1.1	5.7	3.3	0.7	2.1	-6.0
耐久消費財	0.5	6.6	10.5	6.5	-2.0	1.4	-11.3
非耐久消費財	1.4	-1.3	4.6	2.1	-1.9	3.9	-3.2
生産財	4.3	3.5	3.1	3.4	2.2	-0.4	1.1

(注) 通産省調べ、43年3月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

思われる。

(在庫——生産者製品在庫の増勢続く)

2月の鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、1月の+1.3%に続いて+2.5%とかなりの増加となった。特殊分類別にみると一般資本財は標準電動機、標準変圧器の増加にもかかわらず普通鋼鋼管、トラクター、機械プレス等の減少を中心に-2.1%減少したものの、輸送機械がトラック等の増加から+25.5%の著増を示したため、資本財全体では+3.0%の増加となった。また生産財も非鉄、合金鉄、化学製品、繊維等軒並みに増加して+1.7%の増加を示した。消費財では耐久消費財が、夏物家電製品の備蓄に伴う在庫増と、テレビ、電気掃除機、8ミリカメラ等の出荷頭打ちに伴う在庫増から+7.5%と著増を示し、非耐久消費財も合成洗剤、メリヤス生地等を中心に+0.5%の増加となったため、全体では+3.6%の増加を示した。この間建設資材のみは製材の在庫減を中心に-1.6%の減少となった。

2月の製品在庫率は上記のような製品在庫の増大を反映して+3.0%の上昇(在庫率指数は88.3)を示した。2月の在庫率は41年10月と同水準にあり、ボトムを記録した昨年7月に比べると7ヵ月

間に7.7%上昇したことになる。業種別にみて最近在庫率の上昇が著しいのは輸送機械(乗用車、トラックとも)、電気機械(テレビ、その他家電製品)、化学肥料、繊維二次製品等である。

なお速報によると、3月の鉱工業製品在庫(季節調整済み)は+4.6%と前月(+2.5%)を上回る大幅な増加となり、在庫の増勢が強まっている。とくに在庫率は、+4.0%とこのところかなり急歩調の上昇傾向にある。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	42年				43年		
	3月	6月	9月	12月	1月	2月	3月
鉱工業指数	108.8	111.2	115.9	124.2	125.8	128.9	—
前期(月)末比	3.4	2.2	4.2	7.2	1.3	2.5	4.6
前年同期(月)末比	3.5	6.5	9.7	18.0	19.0	20.9	22.9
製品在庫率指数	86.1	83.0	83.0	87.6	85.7	88.3	91.8
投資財	2.3	4.9	7.2	2.7	1.0	0.9	6.7
資本財	1.2	1.2	6.5	7.2	2.1	3.0	7.7
同(輸送機械を除く)	0.4	0.5	7.1	6.9	1.1	-2.1	7.3
輸送機械	4.9	3.8	-1.4	14.8	8.6	25.5	—
建設資材	8.7	6.4	6.8	-2.8	3.4	-1.6	4.8
消費財	5.0	1.4	2.2	10.1	-1.1	3.6	7.4
耐久消費財	18.1	2.7	0.2	9.2	-0.9	7.5	11.2
非耐久消費財	-4.7	1.6	4.9	9.9	-0.4	0.5	2.3
生産財	2.3	2.4	4.5	6.1	2.3	1.7	2.7

(注) 通産省調べ、43年3月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

メーカー原材料在庫(季節調整済み)は、1月+1.2%のあと2月(速報)には1月水準で横ばいとなり、これまでの増勢に鈍化のきざしがうかがわれる。特殊分類別にみると輸入分が天然ゴム、原料炭、工業塩等を中心に-1.2%と減少した反面、国産分は鋼材、繊維等を中心に+0.8%と引き続き増加した。また原材料消費(季節調整済み)は、1月+2.4%と大幅に増加したあと、2月(速報)は、-0.3%と伸び悩んだ。業種別には船舶、ゴム製品工業で増加した反面、非鉄、機械(船舶を除く)等では減少が目だった。以上のような在庫、消費の動向を映じて2月(速報)の原材料在庫

率は+0.2%(在庫率指数89.2)とわずかながら上昇した。特殊分類別にみると、国産分が素原材料、製品原材料ともに上昇し+1.0%となった反面、輸入分は素原材料が微増したものの製品原材料が大幅に低下を示したため、-0.5%と低下を示した。

1月の販売業者在庫(季節調整済み)は、-1.9%と前月(-0.5%)に引き続いて減少したが、これは流通段階の在庫調整の動きを反映した面が大きいと思われる。1月の動きを財別にみると、輸入分素原材料が綿花、羊毛、生ゴム等を中心に-9.7%と大幅に減少し、国産素原材料も-5.1%となったため素原材料全体では-7.6%の減少と

なった。また製品も鋼材が増加した反面自動車も著減したため-0.9%と減少した。

◇鉄鋼、繊維は下げ一服ぎみとなったが、大勢は軟化歩調

最近の商品市況をみると、大幅値下がりを目だった繊維が期明け後一時下げ一服商状を示し、また昨秋来一貫して軟化を続けてきた鉄鋼も4月下旬にはいり小反発をみせるなど多少の起伏がみられた。しかし他方、非鉄では銅、鉛が続落、久しく値動きの乏しかった亜鉛も値下がりしたほか、化学、紙も軟調を続け、これまで堅調裡に推移してきた木材にもようやく頭打ち気配がうかがわれるなど、軟化傾向をたどるものも少なくなく、商況の大勢は依然軟化基調にある。主力製品相場におけるアヤもどしないし下げ一服気配も、極端な売り急ぎないし見送り人気の訂正といった性格が強いと思われる。

供給面では、増設設備の稼働に伴う供給面からの圧力増大(鉄鋼、化学)や、シェア意識に基づくメーカーの売込み競争の激化(鉄鋼、石油、一部非鉄)が続いているほか、これまで供給不足ぎみに推移してきた綿糸でも、先行きの増産期待が相場に影響しはじめている。他方需要面でも、流通段階での当用買い傾向が概して強まっており(木材、一部非鉄)、また実需筋にも手当て態度を消極化するものがしだいに目だってきた。たとえば、鉄鋼関係では、造船向け、非鉄では、電線、伸銅品、合金向けなどが伸び悩みを示している。このような状況から推して、先行きの市況動向についても、品目により多少のアヤ場面はあっても、大勢としては依然徐々ながら軟化傾向をたどるものと予想される。

次に主要品目別の動きをやや詳しくみると、鉄鋼では、鋼板類、条鋼類とも値下がりを続け、前回引締め時の最安値を割り込んだあと、4月後半には大手メーカーの合併問題表面化を契機に市況テコ入れ期待感が台頭し、また、経営行きづまりの大手平電炉メーカーについては業界の支援もあって倒産回避の見通しがついたことなどから、特

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年			42年	43年	
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
在庫指数	125.2	127.9	130.0	130.0	131.6	131.6
前期(月)末比	8.1	2.2	1.6	1.6	1.2	0
国産分	7.8	3.8	0.3	0.2	0.9	0.8
素原材料	13.6	5.4	1.0	1.9	0.1	0.2
製品原材料	6.2	3.7	0.4	-0.6	0.9	0.4
輸入分	9.6	-3.3	6.0	6.9	0.6	-1.2
素原材料	9.2	-3.2	6.1	6.7	-0.1	-0.8
在庫率指数	90.6	88.9	90.0	90.0	89.0	89.2
国産分	88.5	88.2	88.4	88.4	87.3	88.2
素原材料	92.7	94.5	100.8	100.8	100.2	101.1
製品原材料	88.5	88.1	87.6	87.6	86.3	86.8
輸入分	100.3	92.3	94.8	94.8	92.3	91.8
素原材料	101.5	94.2	97.2	97.2	94.1	94.2

(注) 通産省調べ、43年2月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年			42年		43年
	6月	9月	12月	11月	12月	1月
総合指数	238.7	265.8	271.8	273.1	27.18	266.5
前期(月)末比	11.8	11.4	2.3	1.4	-0.5	-1.9
素原材料	15.0	-3.2	3.0	-0.5	-4.2	-7.6
製品	11.2	13.8	1.6	1.1	-0.4	-0.9

(注) 通産省調べ、43年1月は暫定。

約店筋の売急ぎ気運がやや改まり、小反発場面をみせた。しかし流通段階の手当て態度は依然慎重で、実需筋も造船関係を中心に引き続き当用買い傾向が強い一方、供給面では新鋭設備の稼働があいついでおり、自主減産の足並みも依然乱れている。次に繊維では、各品目とも3月後半にかけ大幅値下がりを示したあと、生糸を除き小反発ないし下げ止まり気配を見せた。最近の落着きは、相場の天井感台頭(綿糸)や、海外環境の悪化見込みなどから積極化した定期市場での食い売りの動きが、ここにきて悪材料出つくしから一服となったためである。しかし、機屋、ニッターの仕ぶりは依然慎重であるほか、紡績筋が糸市販を積極化するなどの態度もうかがわれ、需給地合いはしだいに引きゆるんでいる。非鉄は、目先き春斗ストによる減産懸念が強いにもかかわらず引き続き軟調裡に推移した。これには、米国産銅スト解決、ベトナム和平交渉の動きなどによる海外相場下落の影響もあるが、国内でも需要の頭打ち(銅一電

線・伸銅、鉛一鉛管板)ないし供給圧力の増大(亜鉛)が目だつなど、需給地合いの引きゆるみがみられる。

次に石油では、灯油は需要期明けから弱含みを続けたが、軽油は行楽シーズン入りに伴う観光バス向けや農作業向けの出回りもあって小じっかりに推移し、C重油も輸入玉の出回り減少から強合いとなった。一方セメントは、堅調な官・民需にささえられて荷動きは活発で強含みを続けたが、木材は土建業界の信用不安をながめた問屋の手当て控えが目だち久方ぶりに弱含んだ。次に化学では引き続き軟化傾向を示すものが多く、基礎薬品では、硫酸が中共向け肥料交渉の難航から値下がりし、メタノール、硝酸、塩ビ等も増設設備の稼働から弱含みとなった。合成樹脂も総じて供給過剰から軟調となっている。紙では、依然春需要の盛り上がりが見乏しいこともあって上質紙、コート紙では軟化傾向改まらず、4月以降大幅減産を打ち出すに至ったほか、白板紙の荷動きも不ざ

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	下降期 (ピーク 38/11) →40/7	上昇期 (ボトム 40/7) →43/2	最近の推移							
				43年			43年3月			43年4月	
				1月	2月	3月	上旬	中旬	下旬	上旬	
総平均	100.0	- 0.6	+ 6.1	保合	+ 0.2	- 0.1	保合	- 0.1	- 0.3	- 0.2	
食料品	15.7	- 0.5	+ 9.7	- 0.5	+ 0.1	- 0.5	- 0.1	- 0.2	- 0.6	- 0.1	
繊維品	10.7	- 7.6	+ 11.4	+ 0.9	+ 0.6	- 0.7	- 0.2	- 0.3	- 1.2	- 0.1	
鉄鋼	9.7	- 3.6	- 0.9	- 0.8	- 0.5	- 1.2	- 0.5	- 0.4	- 0.5	- 0.6	
非鉄金属	4.4	+ 18.9	+ 19.3	- 0.9	+ 3.0	+ 3.2	+ 2.3	- 0.6	- 0.2	- 2.2	
金属製品	3.8	+ 4.2	+ 4.6	保合	保合	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	
機械器具	22.1	- 0.6	+ 1.1	+ 0.1	保合	+ 0.1	+ 0.1	保合	保合	保合	
石油・石炭	5.6	+ 1.3	0.0	+ 0.1	- 0.2	- 1.0	- 0.5	- 0.4	保合	+ 0.2	
木材・同製品	6.2	- 2.8	+ 29.7	+ 1.2	+ 0.3	+ 0.4	+ 0.5	- 0.2	保合	+ 0.2	
窯業製品	3.0	- 1.0	+ 7.1	保合	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2	保合	+ 0.1	+ 0.1	
化学品	7.6	+ 1.9	- 5.1	- 0.2	- 0.3	- 0.1	保合	保合	- 0.1	- 0.3	
紙・パルプ	3.4	- 0.1	+ 2.5	- 0.3	- 0.1	- 0.2	- 0.1	保合	- 0.1	保合	
雑品目	7.9	+ 1.1	+ 6.3	- 0.1	保合	+ 0.2	+ 0.1	保合	保合	- 0.1	
工業製品 うち	82.0	- 1.2	+ 3.8	保合	+ 0.1	保合	+ 0.1	- 0.1	- 0.3	- 0.2	
大企業性	59.6		+ 1.3	保合	保合	保合					
中小企業性	21.0		+ 11.0	+ 0.1	+ 0.4	- 0.1					
非工業製品	18.0	+ 1.3	+ 16.4	+ 0.1	+ 0.3	- 0.4	- 0.2	- 0.4	- 0.5	- 0.1	

(注) 本行調べ、40年基準指数による。

えぎみに推移している。この間砂糖は、供給面で協調減産が行なわれているほか、清涼飲料をはじめ季節需要が活発なためや上伸した。

(卸売物価——久方ぶりに前月比下落)

3月の卸売物価は、前月比-0.1%と10か月ぶりに下落した。これは、食料品(鶏卵)、鉄鋼、繊維が値下がりし、石油・石炭・同製品もフレート安から大幅に下落したことが主因で、反面銅系非鉄は海外高を映じて続騰し、木材もジリ高を続けた。特殊分類では、工業製品が前月比保合い、非工業製品は、同-0.4%の下落となった。

なお、4月にはいつてからの動きをみると、非鉄、鉄鋼、化学等の下落から、上旬-0.2%、中旬-0.1%の続落となっている。

42年度平均では、前年度比+1.5%の上昇(前年度平均同+2.7%)を示した。これは、非工業製品が食料、木材(素材)等を中心に+4.9%の上昇を示したことが大きく、一方、工業製品は、鉄鋼、非鉄の大幅下落もあって前年度比+0.7%の上昇にとどまった。

(消費者物価——続騰)

3月の消費者物価(東京)は、前月比+0.4%の続騰(前月同+0.4%)となった。これは、被服費(洗たく代、仕立代等)、食料費がいずれも上昇したため、反面光熱費は灯油の値下がりから小幅下落した。季節商品を除く総合では、前月比+0.3%(前月同+0.1%)の上昇となった。

なお、42年度平均では、食料費、住居費、雑費等が根強く上昇したため、前年度比+4.1%の上昇(前年度、同+4.7%)となったが、上昇率は前年度(+4.7%)を下回り、36年度以降最低であった。

3月の東京小売物価は、前月比+0.2%の小幅上昇となった。

(輸出入物価——輸入物価大幅値下がり)

3月の輸出物価は、前月比+0.1%の続騰となった。これは、鉄鋼は軟化を持続したものの、機械器具が材料工賃高を、また、繊維が頃来の原糸高を背景にそれぞれ上昇したためである。他方、

輸入物価は、前月比-0.6%と久方ぶりに反落した。これはフレートの反落を映じた鉱物性燃料の値下がりが大きかったため、金属、雑品目は上昇した。以上の結果、交易条件指数は、前月比+0.7%改善し、98.1となった。

42年度平均では、輸出物価は、前年度比+0.2%上昇し、他方輸入物価は、同-0.4%の低下となったため、交易条件は、前年度比+0.7%の改善となった。

消費者・小売・輸出入物価の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年比 上昇率		最近の推移			最近の 前月 前年 同月 比		
		41年度 平均	42年度 平均	43年					
				1月	2月	3月			
消 費 者 物 価	東 京	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	+4.1	+0.8	+0.4	+0.4	+5.0
			91.4	+4.9	+3.9	+0.1	+0.1	+0.3	+5.3
	京	食料	40.9	+3.0	+5.7	+1.9	+1.2	+0.4	+7.4
		住居	10.7	+5.7	+3.7	+0.1	保合	+0.3	+2.5
		光熱	4.5	0.0	+0.1	-0.2	保合	-0.2	+0.9
		被服 雑費	13.0	+3.6	+3.0	-0.5	-0.4	+0.5	+3.1
		31.0	+7.9	+3.4	+0.3	保合	+0.1	+4.0	
	全 国	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	*+4.2	+0.8	+0.4		+5.3
			91.4	+4.7	*+3.8	+0.1	保合		+5.2
	金 口 都 市 5 万 以 上	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.6	*+4.1	+0.8	+0.5		+5.3
		91.3	+4.6	*+3.8	+0.1	保合		+5.3	
小 売 物 価	総平均 (生鮮食品 を除く)	100.0	+2.5	+3.3	+0.4	+0.6	+0.2	+4.0	
		94.3	+2.0	+3.1	+0.2	+0.4	+0.3	+4.2	
輸 入 物 価	輸 出		+0.6	+0.2	保合	+0.2	+0.1	+0.7	
	輸 入		+1.4	-0.4	+0.5	+0.5	-0.6	+1.8	
	交易条件		-0.8	+0.7	-0.4	-0.3	+0.7	-1.0	

(注) 1. 消費者物価は総理府調べ、小売物価、輸出入物価は本行調べ。
2. 40年基準。
3. *印は42年4月~43年2月平均。

◇総合収支は小幅の赤字

3月の国際収支は、貿易収支の黒字幅が季節性も加わって大きく拡大した反面、資本収支が前月とは様変わり逆調となったため、総合では34万ドルの小幅な赤字を記録した。

貿易収支を季節調整済み計数でみると、輸出が1月並みの高水準となった一方、輸入は引き続きまず落ち着いた動きを示し、この結果、収支じり

は155百万ドルの黒字と再び黒字幅を拡大した。最近における輸出の好伸には米国の鉄鋼スト懸念に基づく鋼材の備蓄買いや輸入課徴金賦課を見越した積み急ぎなど、一時的要因にささえられた面がある点に注意しなければならないが、貿易収支が総じて回復傾向にあることはまちがいない。

次に貿易外収支は、期末関係送金の集中もあって118百万ドルの赤字となり、また、移転収支も相当な赤字(43百万ドル)を示した。資本収支では、長期資本がインパクト・ローンの流入増にもかかわらず、輸出増加に伴う延払い信用供与の増大、ガリオア・エロア借款の返済などから57百万ドルの払超となり、短期資本もBCユーザンス決済が増加したため、久方ぶりに若干の赤字(4百万ドル)となった。

一方、金融勘定では、為替銀行の対外ポジションは、外銀借入れが増高をみたものの、反面、季節的事情から輸出手形の買持ち増などがあったため、小幅の悪化にとどまったが、外貨準備は35百万ドル減少し、年度末残高は1,963百万ドルとなった。

3月の貿易収支をやや詳しくみると、まず輸出は、前月に引き続き好伸し、前年同月比で+18%と水準を高め、とくに季節調整後では前月比+7%の著増となった。これには船舶輸出の著増も大きく響いているが、船舶を除いても改善傾向には変わりがなく、最近の動きを3ヵ月移動平均値(季節調整済み)でみると、12月897百万ドル、1月914百万ドル、2月945百万ドルと漸増している。3月の輸出を商品別(通関ベース)にみると、テレビ、化学製品(肥料等)が不振であったが、上記船舶のほか自動車(前年同月比+68%)、鉄鋼(同+22%)、テープ・レコーダー(同+31%)等も引き続き好調を示した。地域別では主力の米国向けが、前述の同国における鉄鋼備蓄など一時的要因もあって前月に引き続き上伸(前年同月比+28%)したほか、東南アジア向けもまず順調な足どりをみせた。先行指標である輸出信用状も季節調整済みで1月著増のあと2月はほぼ横ばいとどまる

国際収支

(単位・百万ドル)

	42年		43年	43年			42年 3月
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月	
経常収支	46	7	99	△272	△49	23	△7
貿易収支	150	129	40	△144	80	184	137
輸出	891	945	856	645	889	1,035	877
輸入	741	816	616	789	809	851	740
貿易外収支	△95	△109	△119	△117	△122	△118	△102
移転収支	△9	△13	△20	△11	△7	△43	△42
長期資本収支	△74	△75	△32	△54	14	△57	△72
基礎的収支	△29 (△93)	△68 (△151)	△132 (△34)	△326 (△28)	△35 (△10)	△34 (△63)	△79 (△92)
短期資本収支	26	38	35	33	75	△4	73
誤差脱漏	8	△2	15	11	29	4	△62
総合収支	5	△32	△82	△282	69	△34	△68
金融勘定	5	△32	△82	△282	69	△34	△68
外貨準備増減	△17	△6	△14	△33	26	△35	27
その他	22	△26	68	△249	43	1	△95

- (注) 1. 四半期別計数は月平均。
2. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
3. 短期資本収支には金融勘定に属するものを含まない。
4. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		信用状		輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易	輸出	輸入	輸出	輸入		
42年									
4~6月	840	739	101	858	942	678	379	877	958
7~9月	863	777	86	887	989	695	382	908	972
10~12月	872	826	46	887	1,065	732	377	931	1,078
43年									
1~3月	945	807	138	960	1,023	780	374	1,014	903
42年11月	855	829	26	876	1,065	757	377	945	1,463
12月	875	856	19	880	1,106	716	379	946	859
43年1月	962	808	154	990	1,041	774	393	1,018	779
2月	904	799	105	917	1,006	769	396	1,009	986
3月	970	815	155	972	1,023	795	333	1,016	944

(注) 季節調整はセンサス局法による。四半期別計数は月平均。

など、月々フレを示しつつも、3月には再び増加を示した。商品別には米国向けを中心に、鉄鋼、電気機械、自動車の伸長が目だっている。

一方3月の輸入は、季節調整後で前月比+2%となったが、前年同月比では+15%とまず落ち着きみとみられる。商品別(通関ベース)には、木材

(前年同月比+21%)、石炭(同+19%)、機械(同+37%)等は、なお増加基調にあるが、食料品(同+5%)、繊維原料(+2%)は落ち着いた動きを続け、くず鉄等も引き続き減少した。輸入承認は前年同月比で+4%と小幅の増加にとどまった。

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年	43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
食料品	34	36	35	28	44	32
	(+4)	(-8)	(+24)	(+12)	(+50)	(+8)
魚介類	23	23	24	19	32	20
	(+1)	(-18)	(+27)	(+11)	(+63)	(+3)
繊維製品	141	161	122	77	138	152
	(-7)	(-7)	(+1)	(-6)	(0)	(+5)
綿織物	20	23	15	8	17	19
	(-17)	(-22)	(-21)	(-35)	(-22)	(-13)
合繊織物	24	33	23	14	27	28
	(+1)	(+9)	(+6)	(+6)	(+4)	(+6)
化学製品	60	58	50	37	52	60
	(+8)	(-6)	(-3)	(-7)	(+1)	(-3)
非金属 鉱物製品	25	26	23	17	25	28
	(+1)	(+6)	(0)	(+4)	(+3)	(-4)
金属製品	153	166	161	128	162	193
	(0)	(+4)	(+22)	(+22)	(+20)	(+23)
鉄鋼	110	117	117	97	115	140
	(-1)	(+3)	(+22)	(+27)	(+17)	(+22)
機械機器	384	409	387	309	382	471
	(+20)	(+9)	(+20)	(+21)	(+13)	(+25)
(除船舶)	292	321	295	215	308	363
	(+19)	(+8)	(+20)	(+13)	(+21)	(+24)
テレビ	16	15	13	9	15	15
	(+10)	(-10)	(+3)	(+13)	(+4)	(-6)
ラジオ	31	32	24	17	26	30
	(+20)	(+9)	(+12)	(+6)	(+15)	(+11)
自動車	31	43	46	34	48	56
	(+33)	(+40)	(+47)	(+22)	(+45)	(+68)
船舶	91	88	92	95	74	108
	(+25)	(+9)	(+18)	(+43)	(-13)	(+30)
光学機器	27	28	24	17	25	31
	(+17)	(+5)	(+6)	(-9)	(+10)	(+12)
その他	113	107	91	63	99	111
	(+9)	(+1)	(+15)	(+10)	(+18)	(+16)
合計	910	963	871	661	903	1,048
	(+8)	(+3)	(+15)	(+14)	(+13)	(+17)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。
四半期計数は月平均。月別計数の内訳は速報による。

木材、機械等は相変わらず根強い増加を示しているが、その他では、くず鉄、銑鉄の落着きに加え、他の原燃料の多くや非鉄地金等の増勢もいくぶん鈍化した。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年	43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	1月	2月	3月
食料品	137	151	154	140	160	161
	(+2)	(+7)	(+2)	(-1)	(+2)	(+5)
小麦	26	24	25	22	30	22
	(-9)	(+4)	(+16)	(-21)	(+52)	(+40)
とうもろこし	17	19	19	18	17	23
	(-5)	(0)	(+2)	(-5)	(-7)	(+15)
砂糖	9	9	15	11	15	19
	(+13)	(+15)	(+25)	(+38)	(+25)	(+18)
原燃料	548	602	596	580	587	620
	(+18)	(+19)	(+13)	(+16)	(+15)	(+9)
羊毛	30	26	27	25	26	31
	(-15)	(-18)	(-15)	(-21)	(-21)	(-4)
綿花	30	29	42	30	44	53
	(+18)	(-17)	(0)	(-22)	(+6)	(+11)
鉄鉱石	60	60	62	62	58	66
	(+20)	(+11)	(+11)	(+10)	(+16)	(+7)
鉄鋼くず	32	24	13	13	14	12
	(+168)	(+33)	(-33)	(-33)	(-29)	(-35)
大豆	20	24	23	21	28	20
	(-9)	(+4)	(-12)	(-27)	(+14)	(-16)
木材	84	85	83	77	86	86
	(+35)	(+39)	(+26)	(+23)	(+34)	(+21)
石炭	33	36	41	37	40	45
	(+21)	(+30)	(+31)	(+39)	(+42)	(+19)
原油	111	146	139	140	136	140
	(+20)	(+29)	(+22)	(+24)	(+23)	(+18)
化学製品	51	55	55	53	54	57
	(+26)	(+22)	(+16)	(+14)	(+22)	(+14)
機械機器	82	95	110	102	112	117
	(+30)	(+31)	(+36)	(+34)	(+39)	(+37)
鉄鋼	31	36	21	23	25	16
	(+211)	(+110)	(-12)	(-1)	(+4)	(-37)
非鉄金属	49	56	53	60	50	49
	(+66)	(+62)	(+25)	(+66)	(+10)	(+6)
その他	46	48	48	46	50	48
	(+26)	(+40)	(+41)	(+33)	(+47)	(+40)
合計	943	1,043	1,038	1,007	1,041	1,068
	(+21)	(+23)	(+15)	(+17)	(+16)	(+11)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。
四半期計数は月平均。月別計数の内訳は速報による。